



本リリースは、文部科学記者会、科学記者会、三重県政記者クラブに配布しております。

NPO 法人地学オリンピック日本委員会 プレスリリース

報道関係各位

平成 28 年 8 月 27 日

NPO 法人地学オリンピック日本委員会

**「第10回 国際地学オリンピック(IESO2016)」成績を発表  
～過去最高の成績、金メダル3、銀メダル1を獲得～**

NPO 法人地学オリンピック日本委員会(理事長:久田健一郎 筑波大学教授)は、三重県で 8 月 20 日(土)から 8 月 27 日(土)まで 8 日間にわたり開催した第 10 回 国際地学オリンピック(International Earth Science Olympiad; IESO)の成績を発表しました。

今回の大会には 26 の国と地域から 100 名の生徒が参加し、高いレベルの地学に関する試験(「筆記試験」、「実技試験」)の総合成績を判定した結果、10 名に金メダル、21 名に銀メダル、35 名に銅メダルが授与されました。

2008 年の初参加以来、9 回目の出場となる日本代表からは、笠見 京平さん(広島学院高等学校 3 年)、坂部 圭哉(海陽中等教育学校 5 年)、廣木 颯太郎(海城高等学校 3 年)が金メダルを受賞、神原 祐樹(大阪府立北野高等学校 3 年)が銀メダルを受賞しました。金メダル 3、銀メダル 1 の成績は、過去最高の快挙となります。

NPO 法人地学オリンピック日本委員会 理事長の久田健一郎は大会の総評を次のように述べています。「世界の高校生が、地学を通じて知識・技能を研鑽し、素晴らしい成果を挙げた大会となりました。生徒たちはこの大会を通じて、三重の豊かな自然・文化に触れながら新たな発見や知識を見出し、地学の発展を支える次世代を担う人材に成長したと確信しています。また運営面では、これまでの参加経験を生かしながら、メンター、三重大学、三重県教育委員会の多大な協力のもと、10 回目の節目の開催にふさわしい充実した大会を開催できたことも大きな喜びです。そして、今回、日本の代表生徒は過去最高の成績を収めました。これは日本の地学のレベルが高いことを実証したと考えます。この代表生徒の活躍に触発され、多くの生徒が地学に関心を持って果敢に挑戦することを大いに期待します」

また、全 100 名の代表生徒の中で最も優れた成績を収めた台湾のジャグワン ホワンには IESO2016MVP が授与されました。

次回の国際地学オリンピックは、2017 年にフランス・コート・ダジュールで開催される予定です。



## 国際地学オリンピックについて

国際地学オリンピック(International Earth Science Olympiad; IESO)は、国際地質科学連合(IUGS)の下部組織、Commission on Geoscience Education, Training and Technology Transfer (COGE)がその活動を支援する International Geoscience Education Organization (IGEO) の主要活動として創設された高校生のための地学コンペティションです。IGEOには、アメリカ合衆国、カナダ、オーストラリア、ドイツ、イギリス、韓国、日本など世界 22 カ国が加盟しており、国際的な地学教育の普及と向上を主要目標にしています。国際地学オリンピック大会は、単に知識を競い合うだけでなく、国際混合チームによる野外共同作業(国際協力野外調査)や、地元高校生との交流会を通して世界各国の若人との友情を育む機会でもあります。

本件に関する報道関係のお問い合わせ先:

国際地学オリンピック 日本委員会 広報事務局 (担当:ラオちぐさ)

Tel: 03-6261-0917(直通兼携帯) 電子メール: [c2rao@jst.go.jp](mailto:c2rao@jst.go.jp)

または

ウェーバー・シャンドウィック(担当:加藤/橋本/大崎)

Tel: 03-5427-7378/7317/7396 当日の連絡先: 090-8963-3525/080-2257-9880/090-3060-1215

電子メール: [jst@webershandwick.com](mailto:jst@webershandwick.com)